

様式第2号（政務活動実施報告書）

2022年 1月14日

井原市議会議長

大 滝 文 則 様

井原市議会議員 西村 慎次郎

下記のとおり政務活動を実施しましたので、報告します。

記

1. 実施期間	令和4年1月12日（水）～令和4年1月13日（木）
2. 研修会等の開催地 または視察、要請・ 陳情活動先	<p>■上富田スポーツセンター 和歌山県西牟婁郡上富田町朝来 3871 番地</p> <p>■阪神園芸 兵庫県西宮市甲子園町1番82号</p>
3. 研修会等の名称 または視察、要請・ 陳情活動内容	スポーツ施設の芝生化に関する視察
4. 研修会等の講師名 または視察、要請・ 陳情活動先の担当者 名	<p>(1) 上富田スポーツセンター 上富田町役場 振興課 課長 平尾好孝 氏 班長 出羽正典 氏 議会事務局 局長 樫山裕子 氏 副局長 小倉一仁 氏 上富田スポーツサロン チーフトレーナー 柳生 歩 氏</p> <p>(2) 阪神甲子園球場 阪神園芸（株） 常務取締役 西田孝廣 氏 甲子園施設部 部長 金沢健児 氏 スポーツ施設部 課長 萬浪広士 氏 ゾイシアンジャパン（株） 熊谷直樹 氏</p>
5. 活動内容	別紙①のとおり

1. 報告書は、政務活動終了後2週間以内に提出すること。

2. 活動内容欄のスペースが足りない場合は、任意の様式により活動内容を取りまとめ、活動内容欄へは、「別添のとおり」と記載すること。

別紙①

■視察の目的

市内スポーツ施設の利用者からは、芝生化の要望をよく聞く。また、芝生のはげた野球場を見て、残念がる市民もいる。一方で、芝生化は、スポーツ振興のみでなく、環境面、景観面、防災面などでも効果が見込まれる。

そこで、実際に芝生化でまちおこしをしている自治体や芝生管理をしている現場を視察し、芝生化のメリット/デメリットを把握するとともに、市内施設の芝生化に対する課題を洗い出す。



■視察内容

1. 上富田スポーツセンター

(1) 現状に至った経緯

平成 7年 上富田スポーツセンター開設
野球場外野部分天然芝

平成11年 屋内イベント広場開設

平成13年 球技場（天然芝）開設

平成18年 屋内イベント広場人工芝化

平成19年 多目的グラウンドBコート天然芝化

平成22年 クラブハウス建築
多目的グラウンドAコート夜間照明付人工芝敷設

平成28年 スポーツサロン開設

平成29年 南紀ウエルネスツーリズム協議会設立
・地域限定旅行業取得（ワンストップ窓口）

平成30年 食育交流センター開設 「TATONJO GARDEN」
・第2種旅行業取得（一般旅行取扱）

令和 元年 地方創生総合戦略 ～上富田ウエルネスタウン構想～
～町民や庁内事業所も上富田町に訪れた人もスポーツをする人も
そうでない人もみんなが心身ともに健康になる～



別紙①

(2) 合宿実績

サッカー：柏レイソル、セレッソ大阪、ヴィッセル神戸、ツエーゲン金沢
横浜FC、長野パルセイロ、なでしこJAPAN、U19日本女子代表
他JFL、大学、高校多数

ラグビー：トヨタ自動車、ホンダ、近鉄、NTT、日本代表、日本女子代表
女子セブンズ代表 他

野 球：阪神タイガースによるウエスタンリーグ公式戦、西濃運輸、大学
高校野球部多数



(3) スポーツ施設維持管理状況

1 上富田スポーツセンター

管理体制：作業スタッフ3名、受付スタッフ1名で運営

管理施設：野球場（天然芝）、ピッチング練習場、
多目的グラウンドA（人工芝）、多目的グラウンドB（天然芝）
屋内イベント広場（人工芝）、球技場（天然芝）、テニスコート4面

芝生管理：外部委託

収 入：スポーツセンター利用料：約17百万円、管理委託料：23百万円

支 出：人件費：約14.5百万円、芝生管理委託料：約8.5百万円、
その他経費：17百万円

2 上富田スポーツサロン

運営体制：スタッフ7名

運営内容：スポーツジム



収 入：スポーツサロン利用料：約35百万円

支 出：人件費：25百万円、その他経費：4.8百万円

別紙①

(4) 取り組みの効果

- ・介護予防対策 約5千万円
- ・合宿や大会による地域経済の活性化 約3億円 その他、地域消費、町民税等
- ・Jリーグや代表誘致による知名度の向上 イメージアップ、移住
- ・スポーツ少年団、青少年への影響 交流、気付き、夢
- ・誇りを持てるもの 自慢、地元就職、Uターン

(5) 課題

- ・平日の昼間の利用、運動する人、スポーツ好きな人をいかに増やすか？
- ・いかに、多くの地域の方を巻き込んだ施策ができるか？

(6) 今後の取り組み・将来構想

- ・人間形成のためのチームビルド研修
- ・紀南全体での合宿メニューづくり
- ・スポーツをする人もそうでない人もみんなが集まれる紀南地方のランドマークを目指す。



別紙①

2. 阪神甲子園球場

(1) 阪神園芸について

- 1968年に設立
- 1976年から甲子園球場を整備
- 業種：造園工事、植栽管理・・・売上の90%は造園業
- 自治体への支援実績：姫路市、高砂市、綾部市



阪神甲子園球場外観



内野グラウンド（掘り起こ）



内野グラウンド（転圧）



トンボ（個人別）



雨天時のシート



ブルペン



外野

別紙①

■所感

○上富田スポーツセンターについて

スポーツ施設がスポーツの振興のみでなく、健康面、観光面、まちおこしにも寄与しており、コンセプトがすばらしい。プロから町民まで、幅広いターゲットに対応した施設を整備し、管理方法もその使用目的にあったメリハリのある管理をされている。

収支面では、利用料だけでは賄えていないが、スポーツ施設を全く利用しない町民も納得できる説明責任が果たせるだけの思いがあり、成果として、人口が微増しており、スポーツ施設の整備を移住・定住にまでつなげている。施設整備には、t o t oの助成金などを活用しており、町税を最小限に抑える取り組みもされている。

利用者が少ない⇒施設の維持管理にお金をかけない⇒施設が古くなる⇒利用者が少なくなる⇒予算削減・・・、という悪循環にならないよう、コンセプトをしっかりと持ち、好循環のストーリーを描き、スポーツのまち井原市の実現につなげていきたい。

○阪神甲子園球場

最高レベルのスポーツ施設管理を行っている阪神甲子園球場を視察し、現地視察と施設管理を行っている阪神園芸様の話伺った。

上記に写真を掲載しているが、トンボも個人別にあり、身長等に応じて長さや均す部分の角度が調整されており、グラウンドは誰がトンボをかけても同じレベルになるようにしてある。プロスポーツ選手が使うグラウンドというのはそこまでの管理が求められる。

井原市においては、プロを呼ぶところまでは一度にはいけないと思うが、市民が安全にスポーツに取り組める環境整備は最低限必要と考える。さらには、大学生や高校生の合宿地として活用していただける環境整備を目指しても良いように感じる。交流人口が増えることは、地域の活性化にもつながる。

以上